

研究テーマ名 コンピュータを活用した語学学習 (CALL) 教材に対する学習者評価

(英訳) Investigating Learners' Perception of CALL Content

研究者紹介

岩田 淳 (医学部・医療社会文化学・教授)  
Jun Iwata (Dept. of Medical, Social and Cultural Science, Faculty of Medicine)

概要

コンピュータを活用した語学学習 (CALL) は、授業や学習支援の目的で利用が広がっています。私たちはこうした CALL 教材に対する学習者の認知と機能の有効性の検証と改善を要する機能の洗い出しを行う目的で、ジョン・クレイトン博士 (ニュージーランド) と共同で e ラーニング教材の評価指標 (Perceptual Measure) を開発し、様々な CALL 教材の評価を行っています。

We have developed a psychosocial instrument capable of successfully analyzing students' perceptions of CALL content. It is envisaged the data generated from such an instrument would firstly help investigate students' perceptions of e-learning content and secondly, evaluate whether the content presented meets the students' needs and thirdly, inform teachers of the effectiveness and appropriateness of learning activities presented to students and help them identify which parts of the content they need to modify.

特色  
研究成果  
今後の展望

私たちの開発した評価指標は、(1) コンピュータ利用に関する能力と自信 (Computer Competence)、(2) 学習効果 (Active Learning)、(3) デザイン (Information Design and Appeal)、(4) 学習に関する内省 (Reflection) の 4 項目について、それぞれ 6 問、計 24 問の質問によって構成されています。学習者には、これらの質問について、それぞれ 5 段階で評価してもらいます。集計したデータは統計的に処理し、教材のどの部分が効果的であったか、改善が必要な項目は何か等の分析を行います。こうした分析結果は、教材改善に向けた貴重な資料となるだけでなく、より有効的な CALL の活用に向けた課題を把握する上で、その効果が期待されています。

これまで、この評価指標の開発や、指標を用いた教材分析の結果について国内外の学会や論文誌で発表しています。今後はモバイル端末を用いたモバイル・ラーニング教材の評価指標への応用開発に向け、評価項目の検討を進めています。

これまで、この評価指標の開発や、指標を用いた教材分析の結果について国内外の学会や論文誌で発表しています。

今後はモバイル端末を用いたモバイル・ラーニング教材の評価指標への応用開発に向け、評価項目の検討を進めています。

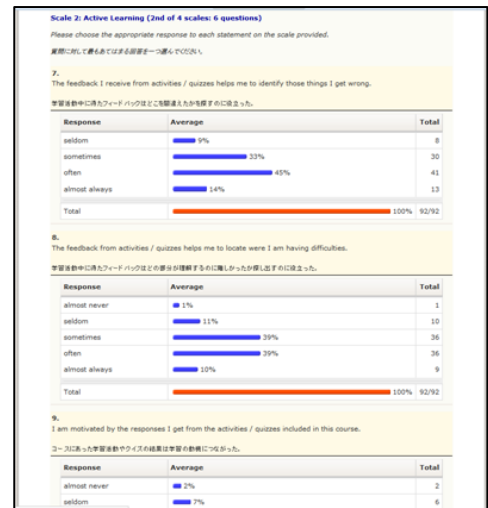


図. 評価指標 (Perceptual Measure) の一部

キーワード

英語教育、コンピュータ、CALL、学習者評価、教材開発

リンク

<http://www.izumo-elearning.saloon.jp/>